



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



小教区の現状を分析し未来へ

分かち合いを中心にした今年の教区評議会

2年に一度開催され、教区の重要な問題について司教、主任司祭、小教区信徒代表で話し合う「教区評議会」が、鹿兒島カトリック教区本部を会場に11月3日(木)開催された。出席したのは教区内にある28小教区から所用のため欠席した鹿屋小教区を除く27小教区。出席者たちは地区別、グループ別の分かち合いで小教区の現状分析を行い、また小教区の活性化の手立てを探った。



11月3日(日)午前10時から鹿兒島カトリックホール・ザビエル教会ホールなどを会場に教区評議会が行われた。今回のテーマは、「神のいつくしみの特別聖年にあたり、信仰の伝達と班制度の生かし方」。

①前回の教区評議会後、小教区の信者の交わりと宣教は班を中心にしたものになったか。もし、そうならなかったとしたら、

何故か。
②信仰の伝達、特に親子への伝達について。
③神のいつくしみのわざの実践。たとえば教会から遠ざかっている人との関

教区の再編成、司祭交流を検討

長崎教会管区司祭会議

10月25日(火)から27日(木)まで、長崎教会管区司祭の司祭の集いが福岡

わりについて。
午後からは、午前中に出された分かち合いから教区全体を取り組むべきことがあるかを考えるため、地域混合で6グループに分かれて分かち合いを行った。
郡山司教も午前・午後の分かち合いに参加し、総括では、「高齢化の捉え方として嘆くのではなく、できることをすること。祈りについて多くの意見が出されたこと」に触れた。分かち合いの内容は、後日、機会を設けて紹介する。



参加者は130余人。教会管区レベルの集まりは、1999年の西日本司祭大会以来16年ぶり。
今回のテーマは、「長崎教会管区の教区再編成と司祭間の交流」。

現状を互いに理解し、宣教に向けて教区間の連携を深めていくことが狙い。
最初に各教区の現状と課題が発表され、事前に行われた司祭団意識調査を基本に、教区編成、各教区の司祭間交流の在り方、長崎教会管区レベルでの交流(現に行われている東日本大震災被災者支援の活動のようなもの)について15の分団に分かれて率直に語り合った。全体会では、そのまとめが行われた。

司祭職をまっとうして

柔和の人大野和夫神父帰天

鹿兒島教区司祭ヨゼフ大野和夫神父の葬儀ミサと告別式が11月7日、奄美市名瀬幸町の名瀬聖心教会であ

った。挨拶に立った郡山健次郎司教は、「最後まで司祭職をまっとうし、すべてを神さまにささげた一生だ

った」とその死を悼んだ。温和な優しい人柄で多くの人を魅了した大野神父。奄美大島内外から親族、司祭、信徒などが参列。聖堂は神父を慕い、別れを惜しむ人々であふれた。

つとうし、すべてを神さまにささげた一生だった」と感謝した。また、決して偉ぶることのなかった神父の人柄を偲び、神父が流暢にドイツ語を操るエピソードを紹介。「『能ある鷹は爪を隠す』と言うが、大野神父の爪は人を傷つけるものではなく、人を救いへと運ぶ爪だった」とその遺徳を称えた。

敬司元信徒総代が、杖を2本使うようになった大野神父を心配すれば「足が4本もあって安心」、あるいは同教会ではかつて十字架像が天上から吊り下げられていたので「その下で司式するのは怖くないか」と問えば、「十字架の下敷きになつて祭壇で亡くなるなら本望」と応答するなど、神父の泰然自若とした人柄を紹介。そして「誰にも介護も看護もさせず、さようならを告げることも言わせることもなく逝かれた。われわれに最後まで信仰の模範を示した」と弔辞を述べた。

第32回ネットワークミーティング

カトリック青年たちの出会いと交流、分かち合いの場として、年2回行われているネットワークミーティング。9月に鹿兒島の青年たちが桜島を中心にして全国の青年を迎えて行ったが、次回は関東の青年たちによって実施される。大会のテーマは「いってらっしゃい」。詳細は次の通り。

日時：2017年3月18日(土)12時半から19日(日)13時まで。
場所：カリタス女子短期大学(横浜市青葉区あざみ野2-29-1)
対象：18歳以上の青年
参加費：4,500円
申込：カトリック青年連絡協議会ホームページhttp://catholicyouth.jp/から「お知らせ」をクリックすると申し込み方法が示されている。
締切：1月31日(火)



郡山司教は、大野神父の最期に言及し、「死の直前までミサをささげ、司牧に努めた。最後まで司祭職をま

出を披露した。また「小限憲士神父や貴島丈弥神父を生み、いま神学院で学ぶ二人の教区神学生を導いた」とし、「司祭召命に関する熱意も忘れられない」とその貢献を賞賛した。

この日、司教のほか、教区司祭および修道会司祭15人が参加。また島の内外から親族、信者など約500人が参列し、温和な優しい人柄で親しまれた神父との別れを惜しんだ。

【4面に関連記事】

諏訪勝郎神学生の「僕の長崎への道」 日本二十六聖人の道を歩いて

2月23日(火) 神戸三宮
―明石:約25km

昨晩は六甲山の麓にあるイエズス会神戸修道院(ザビエルハウス)に泊まる。神学院の養成者、コリンズ神父の紹介。僕が日本二十六聖人の道を基本、テント泊で歩くと聞き心配、経路にある心当たりの教会、修道院に連絡してくれた。大阪で世話になった崔周永助祭も同様だ。結果、二人のお蔭で、今のところ姫路までテントを張る必要がない。ありがたいかぎり。このように、単独行と絆がついてはみても、決して一人で歩いているのではない。

今朝も。修道院の赤松広政神父とオマリ―神父と朝食を共にしたときのこと。僕の旅に話が及び、二人は、これを「巡礼」と呼んだ。「とんでもない。肉刺が痛くて祈りどころではない。『巡礼』だなんて言うのも憚れる」と遮る僕に、オマリ―神父は真顔で言った。「そんなことない。それでも主は、君と共に歩いてくださっている」。

午前10時過ぎ、三宮、元町の歓楽街を抜ける。鉄道の高架下に、飲食店をはじめ工場まで、さまざまな業態の並ぶのが珍しい。兵庫駅前から鉄道路線を離れ、趣きも何もない国道へ。大田町交差点近辺のコーヒーショップで休憩。トラックでは身体が受けつけず、シュガーステイックを三本も。疲労のせい。滅多にないことだ。国道を南西へと直進。や

がて須磨の海が。鈍色の空を映し、銀しゅう色に静かなおもてを輝かせている。海岸に並行して走る鉄路に陣取った撮り鉄の一人に、海をバックにシャッターを依頼。撮り鉄が狙うのはJRの特急のよう。だが僕には、僕の左手を走るそれより、右手の山側を走る山陽電鉄の、旧型車両と思しき古風で鄙びた佇まいが好ましい。車体の柔和なクリーム色や橙色が、背後の山の緑に馴染んで目にも優しく映るのである。

海を眺めつつ、ひたすら西へ。三井アウトレットパークを過ぎると、明石海峡大橋が。目前に聳え立つ巨大なその鉄骨とコンクリートの構築物は、たしかに壮観ではあるが、化け物じみている。いま、人間原初のリズムを再認識し歩く僕にとって、それはもはや人間のスケールを超えるものしか映らない。海岸線が途絶え、埋立地

らしきところに入る。明石の市街地。国道から脇道へ。子午線の時計塔を眺めつつ、住宅街を行く。午後4時過ぎ、明石教会着。

2月24日(水) 明石―姫路:約43km

午前7時、朝の祈り。その後、ミサ。

朝の祈りが始まるまで、お聖堂に坐して待っている。不思議と気持ちが落ち着いて。歩行ペースの上がない焦燥も、自らの不覚を口惜しく思う雑念も失せて。また何より、ミサに与るうち、疲労よりも力漲る感覚に満たされたのである。

このことか、と合点がいった。「ご聖体から力を汲みなさい。苦しいときこそ、聖務日課とミサを大切に。神学院で」とあることに、特に神学生が体調不良や心身のバランスを崩してお聖堂に空席が目立つようになると、決まって養成者が語っていた。明石教会では、朝の祈り

もオルガン伴奏で唱える。ミサも、平日の朝ミサだが、オルガン伴奏付き。「小教区としては珍しいでしょう」と笑顔を湛え松浦謙神父。

きのう初めてお目にかかり、さっぱりとしたその面貌は、一切のこだわりが拭かれていくように思われた。嫌味のない清々しい神父だ。朝食のとき、姫路から先、広島教区内に知己もなく、宿泊先もほとんど確保できていないと知ると、「神学生時代の同級生が広

カリタスジャパン担当者会議を終えて

教区担当者 終身助祭 川口 茂

カリタスジャパン担当者が10月25日、26日の2日間、カトリック中央協議会本部で開かれた。

出席したのは責任司教の菊池司教はじめ援助部会秘書、啓発部会秘書、全国16教区からの担当者、社会福祉推進部長、事務局長ほか職員計25人。

また大分教区(吉田師)からは、湯布院、竹田の被害が大きかったこと。お告げのマリア修道会湯布院修道院が被災して引き揚げたため、そこを借り上げて教

島教区の司祭に「電話をしてくれた。感謝の言葉もない。午前10時、明石教会を発つ。きのうから左足の脛が痛む。無意識のうちに肉刺をかばい歩くうち、痛めたものか。ペースが上がらず閉口する。おまけに歩行中目に映るのは、市街地の殺伐とした景観ばかり。山を削り、地を均し、セメントとアスファルトで塗り固めたそれは、何とも無機質で暴力的だ。一向、興が乗らな

い。「京阪神間は市街地を行くばかりで詰まらないが、広島教区に入れば山もあって楽しい」との松浦神父の言葉を思い出す。神父は日本二十六聖人の道の、京阪神間を歩いている。ちなみに、サンティアゴ巡礼の道(スペイン)を自転車車で走破した猛者でもある。

現実だ。午後6時過ぎ、すでに夜の帷が。街灯の乏しい道を、いまだこを歩いているかも分からず、ひたすら西進。やがて、所々に見る商業看板の、姫路支店などというロゴに、市内に入っていることを知る。市川橋を渡り、直進。ライトアップされた姫路城が。夜空に真白く浮かんで。姫路教会は、その傍らに。這々の体で辿り着く。午後8時過ぎである。



明石教会前で

文芸

俳句

国分教会 政 ノブ子
秋冷や宮様偲び傘の列
島教会ミサ荘厳に暮れの秋
潮風に浜辺のアダン赤とんぼ
ふるさとの変貌に戸惑う里の秋
鹿児島純心 川上 和
聖年のミゼリコルデス年暮るる
明けの空描いている待降節を

奄美市 林 常広

置き去りか季節外れの冬の蝉
始良教会 川口 節子
秋の野に野菊咲きいし必然と

短歌

鹿児島純心 川上 和
ザアカイや「早く降りよ」と主のみ声新
たな命エリコ町の町に
始良教会 川口 節子
幼子の両親信仰宣言し聖なる水に神の子
誕生

祭壇奉仕者に選任

ローマに学ぶ霧島神学生



ローマで司祭養成を受けている霧島杉神学生が11月1日(火)、聖アポリナレ聖堂で祭壇奉仕者に選任された。(写真はローマの日本人会の参列者とともに記念撮影した霧島神学生)

会にしていること。別府教会の屋根に被害があったこと等が報告された。このほか、東日本大震災関連では長崎教会管区のカリタス大槌ベースが岩手県大槌町「こどもセンター」の活動を支援しており、このたびの新築移転にあたり大槌町教育委員会に3千万円の支援を決めた。この他にも11件の支援決定があった。

この他1日目は、調布市で中学生から20歳代まで誰でも利用できる「子どもたちの止まり木になれたら」というNPO法人「青少年の居場所KITOS」(サレジオユースセンター)の活動内容を聞いた。(議題3)は、事務局報告で①各教区四旬節献金報告、②四旬節資料申込案内・資料の部数増減に伴う申込みについて、③次回定例全国担当者会議は来年10月福岡教区で開催されることが決まった。

温もりと信念に満ちた方でした！

先に天国に旅立たれた大野神父様へ

コーヒー一杯の思い出

教区司祭団代表 中野裕明神父

神父、貴島丈弥神父、田代竜之神学生、諏訪勝郎神学

拝啓、大野神父様
先週金曜日の午前中、神父様がお亡くなりになったとの一報がありました。その後、間もなくして、地区長の永山神父様から弔辞を頼まれました。突然のこと

で戸惑いましたが、いつも変わらぬ神父様の笑顔が胸に浮かんできて、「神父様にご報告すべきことがあったなあ」と思い、弔辞をお引き受けしました。

大神学生の頃から40数年、神父様にはかわいがっていただき、何の遠慮もてらいもなく話し合いの相手をしてもらっていました。で、神父様に手紙を差し上げたことは一度もありませんでした。今回、このような形で、皆様の前でお手紙

を公表する羽目になりました。「公表する羽目になった」など「失礼な言い草」と皆さんは思うかもしれませんが、私と神父様との会話はいつもこんなに遠慮のないものでした。

神父様は「来る者拒まず、去る者追わず」というスタンスなので、誰でも気軽に近寄れたと思います。「おい、コーヒーを飲んで

いかんね」と声をかけてもらったのが、鴨池時代の神学生の頃でした。この声かけは生涯に渡りました。この声かけで、飲みながら、食べながら、テニスをしな

奄美信徒のお父さん、大野和夫神父様へ。感謝とお礼をたくさんある中から2つ話します。

神父様は「じゃあ、先に行くから...。君たちは後から来いよ」と冗談の一つも言わずに、さつきと行ってしまわれました。いつも「死」について「死に上手と下手な死に方があるんだよ」と語ってくれました。

介護もされず、見舞いもさせず、「さよなら」も言わず旅立ったということ、私たちに手本を示されたのでしようか。「死ぬこと、亡くなること

奄美信徒のお父さんへ

信徒代表 平 敬司

生を生んだのです。今年、卯年の美島春雄神父様が神に召されました。同じく卯年の先輩の神父様も召されました。殿の卯年の私は、今後、満月を見上げながら献杯したいと思

いうことは、私のようにこ

またドキドキ、ハラハラの神父様でした。以前、天井から吊り下がっていた十字架の下で、ミサをささげる神父様に「あの十字架が落ちてきたらどうするんですか」と尋ねると、「それで死んだら、神父として本望じゃがな」と軽く答えた神父様...

やがて足が弱って、祭壇の上り下りが不自由になっ

でも、毎日祭壇を上り下りする姿に、信徒は皆、ハラハラ、ドキドキするのでした。杖が1本から2本になった時は、「大丈夫ですか」と聞きますと、「足が四つもあるんだ。大丈夫」と笑った神父様でした。それでも侍者を務める人は、皆、心配したのです。亡くなる前まで、祭壇に立ち続けられた神父様に、私たちが教えられました。信仰についても、社会生活の中

終わりになりますが「司祭叙階五十周年記念誌」の中に「私につながっていないか」とあり、それに「私はイエズス・キリストにつながり、誰よりもキリストを愛し続けます」とありました。私たちがキリストと大野神父様とつながり、愛し続けて行きたいと思

新刊のご案内

「フランシスコ 教皇さまへ」

世界の子どもたちが教皇へ宛てた30の手紙。教皇がその質問に、やさしくキチンと答えます。ドン・ボスコ社 定価1,200円+税



鈴木神父のやさしい言葉

占星術とイエスの誕生

マタイ福音書ではイエスの誕生にあたって、占星術の学者たちがヘロデ王のところへやって来たことが描かれています。ここでは複数形で「学者たち」と表現されているだけで「三人」とは特定されていませんが(2・1)、後の「黄金、乳香、没薬を贈り物として捧げた」という記述から(2・11)、彼らは三人として伝承されてきたのでし

よう。しかし、その理由はこれだけではありません。この話は天文学的事実を踏まえたものである、と言われることがあります。この考えに基づけば、彼らが東方で見た光り輝く星、即ち、イエス様の誕生を現す星とはおおいぬ座の恒星シリウスで、学者たちとはオリオン座の中心にある三つの星のことを指している

人として伝承されてきた所

天体を地上の何らかの出来事を写し出すものとして考

の世に啓示されたものであることを表現したかったの



南九州小神学院の初代院長を務めた大野神父

「教会が盛んになること」の一言に尽きると思います。「信者が1人、未信者を教会に連れて来れば、信者が2倍になるがね。司祭召命は神様が呼ばれた時がその時だから、年が若くてもこたえ

「信者が1人、未信者を教会に連れて来れば、信者が2倍になるがね。司祭召命は神様が呼ばれた時がその時だから、年が若くてもこたえ

「信者が1人、未信者を教会に連れて来れば、信者が2倍になるがね。司祭召命は神様が呼ばれた時がその時だから、年が若くてもこたえ

「信者が1人、未信者を教会に連れて来れば、信者が2倍になるがね。司祭召命は神様が呼ばれた時がその時だから、年が若くてもこたえ

「信者が1人、未信者を教会に連れて来れば、信者が2倍になるがね。司祭召命は神様が呼ばれた時がその時だから、年が若くてもこたえ

「信者が1人、未信者を教会に連れて来れば、信者が2倍になるがね。司祭召命は神様が呼ばれた時がその時だから、年が若くてもこたえ

